

県内の医師や看護婦が中心になって、昨年十一月に発足した「徳島で国際協力を考える会（TICO）」の白石吉彦会長（三〇）徳島市南佐古八番町、県立中央病院医師ら会員三人が、二月末から三週間、アフリカのソマリア難民の医療調査のため、ジブチの難民キャンプを訪ねる。同会からの海外派遣は今回が初めてで、白石会長らは「現地のニーズを把握して、地域での医療協力に生かしたい」と話している。

国際協力を考える会

海外派遣は、アジア医師会、年休などを利用した短期派遣となった。

徳島で国際協力を考える会は、アフリカのマラウイで、青年海外協力隊員として二年間、医療活動をした

吉田修さん（三五）

麻植郡山川町

前川、同病院医師

が「地域でできる医療協力を考えよう」と呼び掛けたのが

きっかけで結成

された。県内では

初めての国際医療協力活動

グループで会員は

現在三十人。この

うち医師や看護婦

が八割を占めている。

生活環境も把握へ

なお、同会は

十六日午後一時

半からJR徳島

駅ビル内の国際

交流プラザで

「第二回徳島で国際交流協力を考える集い」を開く。

ソマリア難民救援活動に参加した医師らが活動状況を話す。問い合わせは、同市富田浜一の近藤整形外科内の同会事務局へ電0886(54)6808へ。

ソマリア難民を救え

県内の医師ら医療調査

野郡松茂町広島、同病院看護婦IIが参加する。AMD Aは昨年一月からソマリアの隣国ジブチ国内で、ソマリア難民に対する緊急救援活動を展開しており、三人は難民キャンプでの診療活動や難民の生活環境などを調査する。

白石会長は自治医科大学時代に中国へ留学した経験をもつが、丹生谷、谷尻さんも含め、三人ともこうした海外での活動は初めて。それぞれ職場の都合などで長期休暇取得が困難なた



ソマリア難民の医療調査のため、ジブチへ派遣される左から白石、丹生谷の両医師と看護婦の谷尻さんII県立中央病院